



伊能忠敬旧宅前にある橋樋橋
用水が流れる大樋があり
30分に一度川に落水します

皆様、新年あけましておめでとうございます。



本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



河野

新型コロナもいつの間にやら落ち着いてしまい、あの騒動は随分と前の出来事だったように感じるのは私だけでしょうか？昨年10月に7回目のワクチンを接種しましたが、さてさて8回目はあるのでしょうか？

上の写真は、昨年東京出張に併せて千葉県北部にある香取市佐原にある伊能忠敬旧居を見学に行ったときに撮影した写真です。この樋橋は用水を流す大樋があり、観光用に30分に一度写真のように落水させるので、通称“ジャージャー橋”と呼ばれているそうです。伊能忠敬については裏面でご紹介させていただきますが、旧居があるあたりが保存地区として整備されているとは全く知らず、かつて佐原が水運の要衝として発展した町であることを初めて知りました。インターネットで手軽に何でも調べることができ居る便利な時代になりましたが、自分の足で現地に行きその空気に触れ、自分の目で見る事が一番であることを痛感した旅でもありました。今年も出張で東京に行く機会が何度かあるようなので、今回のように少し足を延ばして関東圏を見て回りたいと思っております。



さて、社業に目を向けますと水回りのリフォームにおいては家電量販店さんとの競合が顕著になってきました。ただ、家電量販店さんは内装までの工事しかされず、構造躯体(柱や梁)は触られないという方針のようです。と言うのも、先般お客様から「お風呂のリフォームを家電量販店に頼んだら、併せて浴室の露出した柱が蟻害で腐っているので直してほしいと伝えた所、それはゲイナンハウスさんに直してもらって、その後リフォームさせていただきますと言われた」と話してくれました。笑い話のようですが、こちらもビックリ。勿論家電量販店さんにはブランド力や仕入れ力などとても太刀打ちできるものではありませんが、弊社の在り方を考えさせられる出来事でした。

これまでの「お客様に喜ばれる仕事」だけでなく、「お客様にとって必要な仕事とは」という目線を持って、一つ一つの仕事に取り組んでいきたいと考えております。社員一同頑張りますので、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

令和6年1月吉日 河野 啓一



断水！困った～

昨年の10月1日曜日、大竹市で大規模な断水が発生しました。原因は大竹駅付近にある水路に埋められていた古い水道本管に拳ほどの大きさの穴が開いたため、その修理のために断水をして修理を行ったようです。

私の家も朝から「あれ？水の出が悪いな・・・」と次第に水が出にくくなり、「ん？うちだけか？」と隣にも確認すると、「うちも出ん！」とのことで、予告もなしに断水することはないので、「こりゃ何かあったな・・・」と市のホームページを見ると断水していることがわかりました。(防災無線で放送していたようですが、家の中までは聞こえませんでした)

さて断水で一番困るのが“トイレの水”。幸い我が家には昔から使っていた山水が裏山から出ていますので、それをバケツに溜めては流して事なきを得たのですが、後々聞くと皆さん相当困られたようです。今回の断水は半日から長くて夜まででしたので皆さんそれなりに何とかされたようですが、平成30年に起きた西日本豪雨で呉市に住んでいる家内の妹が長期間の断水に見舞われた際、「とにかくトイレを流す水に困った！」と声を大にして言っていたのを思い出しました。

ですので、断水が起こるときには浴槽にしっかりと水を溜めてトイレの水を確保しておくことで短期の断水なら対応できそうです。ですが、そんな断水は予告なんてないですよ！



給水車の様子



台湾で天燈上げ



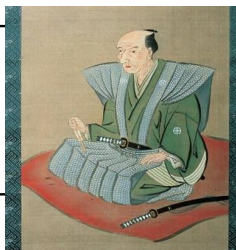
以前から台湾に行こう！と夫婦で言うておりましたが、コロナ禍でなかなか実行できずにいましたら、東京にいる次男と一緒にいこうかと誘ってくれましたので、昨年の12月月初に行つてまいりました。広島空港から台北へ直行便が出ていましたので、国内旅行と変わらない手軽さで行くことができました。

台湾では台北や南部の高雄など観光しましたが、何と言っても一番印象に残ったのは十分(じゅうふん)と言う所での天燈上げです。台北から1時間ほどバスに揺られて到着。到着前にガイドさんから「天燈に書く願ひ事決めておいてくださいね！」と言われていたので、「ゲイナンハウスが地域から必要とされていつまでも続くように！」との願ひを書きました。小雨は降っていましたが、準備されていた天燈に家内とそれぞれの願ひを書き、天燈を上げるスタッフのところ(線路：ローカル線なのでめったに列車は来ないらしい)に行くと手際よく写真を撮ってくれて、写真のように空に上げることができました。どこまで上がるか首がだるくなるほど見上げていましたが、風がなかったおかげで、まっすぐに点になるまで思いを乗せて上がっていききました。

どうか願ひが叶いますように！(啓)



「住いの困った」は ゲイナンハウス 大竹店・廿日市店共に
フリーダイヤル0120-505-375 URL:<http://www.geinan-house.co.jp/>
最後までお読みいただき有難うございました、次回は4月頃の予定です。(啓)
*尚、この「住まいる通信」がご不要の方はご一報願ひます。送付を停止いたします。



初めて日本地図を作った
伊能忠敬を訪ねて

予てから伊能忠敬の生涯に興味があり、千葉県香取市に資料館や生家があると知り、一度は行ってみたいと思っておりました。昨年、出張に併せて時間が取れたので、東京から電車で揺られること2時間ほどかけて行ってきました。



伊能忠敬旧宅

伊能忠敬に惹かれたのは、家業を成功させた後49歳で隠居し、それまで勉強しかつた暦学（天文学）を学ぶべく50歳で江戸に出て弟子入りをしたことです。今に例えると平均寿命が50歳前後だった当時の比較は難しいですが、少なくとも定年を迎えた65歳から弟子入りしたと言うことではないでしょうか？私が67歳になりましたので、私とほぼ同じ年代で先生について新しいことにチャレンジしたその意欲にただただ感服するばかりです。



伊能忠敬記念館

しかも忠孝が知りたかったのは何と“地球の大きさ！”。それを何とかして計算しようと、2Kmほど離れた浅草と深川で北極星を観測して計算したのですが、師匠から「それでは誤差が大きすぎる、少なくとも蝦夷地ぐらい離れた所で計算すれば」と言われました。ちょうどその頃ロシアからの圧力がかかり始め、幕府としても蝦夷地の正確な地図が必要になってきていたと言う時勢に、幕府に蝦夷地の測量を願い出て地図作りが始まったようです。

忠孝の測量の方法はインターネットでいくらでも出てきますので、ご興味のある方はそちらをご覧くださいければと思いますが、彼の根気強さは素晴らしく、一步一步正確に歩測するために一步の幅を69cmで歩く訓練をしてから蝦夷地に向かったとのこと。正確に一步一步歩く様になるまでどれ位訓練したんでしょうか？

左の日本地図、赤い線が現在の地図、薄く淡い線が伊能図です。自らの足と、当時の測量器具でこれだけの誤差の少ない地図ができたことに驚くばかりです。ちなみに私の毎朝のウォーキングの歩幅を計算してみたら平均85cmでした。私の方が少し脚が長い？

(笑)

さて、忠孝が一番知りたかった地球の大きさについてですが、蝦夷地に向かって北上しながら測量と天文観測を行い、緯度1度の長さを28.2里(110.7Km)と求めました。

従って、緯度1度110.7km × 360度 = 39,852 km

現在分かっている子午線での円周が 40,009 kmですからその差は何と157 kmつまり0.4%程度と、その正確さに驚くばかりです。

もし忠孝が現在の正確な数値を知ったら何て言うか聞いてみたいですね

(啓)

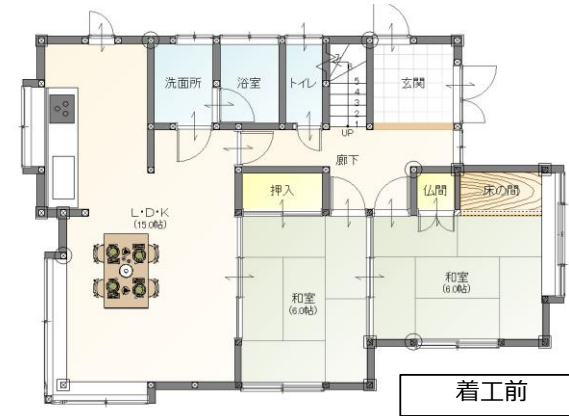
てっきり地図が作りたくて隠居後に始めたと思込んでいましたが、実は純粋に“地球の大きさを知りたい！”という探求心からだったんですね。地球の大きさを計算してからは幕府の命令で全国の地図作りを行い、73歳でその生涯を終えています。

日本全国の詳細な地図を作製したと言う偉業は敬服するばかりですが、50歳で新しいことにチャレンジしたその行動力こそ習わなくてはとの思いに至ります。(啓)

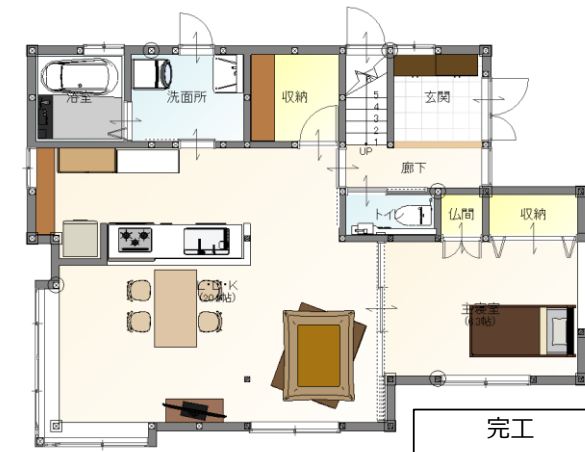


最近の施工事例より
窓からの眺めを楽しみたい
1階部分の全面改修

今回の施工事例は築30年ほどの木造二階建てのお宅です。本社の近所で少し小高い位置に建てており、リビングの出窓からは大竹駅方面が一望できます。お母様も高齢となり、1階部分を温かく使いやすい住まいにしたいとのご希望でした。



着工前



完工

左の図のように、キッチンが奥まった位置にあり、LDKも和室の続間があることでリビングとして過ごす空間としては少し狭くなっていました。

また、和室がお母様の寝室となっており、和室の続間が使い勝手の悪い部屋でもありました。

また、1階に収納が少なかったために1階部分が片付けにくい状況でもありました。

そこで、間取りをすっきりとするべく、浴室・洗面所・納戸を北側に一列で配置し、リビングを広くするために、和室二間続きの間をLDKに取り込む間取りとしました。

耐震と断熱の観点から南道側にある大きな出窓を小さくできればとのことのお話もしましたが、せっかくの眺めは残したいとのご要望も取り入れるべく検討し、構造の要となる二か所の柱を残して左図のようなプランにて施工させていただきました。

サッシはすべて断熱サッシに取り換え、床下・壁面は気密と断熱性を確保した施工としています。



LDK



浴室・洗面所



玄関



トイレ

広いゆったりとしたLDKにあるキッチン前に立つてからの眺めは、開放的で気持ちよかったです。また構造上残した柱もあまり気にならず、無理に撤去せず良かったと一安心しました。お客様からも、暖かくとても快適だと喜んでいただきました。(啓)